

# 令和2年度事業報告

令和元年11月1日～令和2年10月31日

一般財団法人 CHANGアジアの子供財団

## 事業報告

新型コロナウイルスによって海外への渡航は年度前半のみとなりました。また国内でのチャリティイベントや児童館でのお祭りやお話し会もできない年度となりました。それでも年度前半でカンボジアの幼稚園を開園し、ラオスでは小学校の建て直しと、幼稚園の新規建設を行うことができました。これにより初等教育の場を整え、そして幼稚園があることによって、多くの母親が働きに出ることができるようになったことは成果となりました。

そしてカンボジアの孤児院で育った子が、技能実習生として日本に来ることが決まりました。今まで夢のようだった日本で働くことが実現できたことは、同じ村や孤児院で暮らす子ども達にとって現実的な目標となり、私たちにとっても非常に喜ばしく、大きな成果であったと捉えております。

### ■11月中旬：CHANG 幼稚園 開園（カンボジア）

現地に行くことはできなかったのですが、前年度から準備をしていた CHANG 幼稚園を開園することができました。この村には2千人以上の子供がいるのに対して幼稚園の数が全く足りません。母親は子供を預けて働きに出ることが出来ないことから、幼稚園不足は村の問題となっていたの



です。この幼稚園には3才の子が20名入園してくれました。まだまだ村は幼稚園不足ですので、今後も引き続きこの問題対策を考えていきたいと思ひます。

■12月8日：川口市芝児童センター 冬祭り（国内活動）

地元の児童館での冬祭りに参加。キッズゴルフを開催し、高得点者には手作りメダルをプレゼントしました。また全体のビンゴ大会では、企業・団体から頂いた、たくさんの景品を提供。いずれも子ども達に喜んでもらうことができました。



そして、キッズゴルフコーナーには CHANG のパンフレットと募金箱を設置。小中学生が活動に興味を持ってきて、たくさん話を聞いてくれて募金までしてくれました。

■12月10日～12月13日：小学校・幼稚園 建設（ラオス）

ラオスでは前から相談をされていた小学校の建て直しと、幼稚園の新規建設の最終的な聞き取りと視察をしてきました。小学校は屋根が腐って崩壊寸前、またこの地域には幼稚園がなく、母親が子供を預けて働きに出られないことが大きな問題となっていました。今回は、地域の校長2名、行政の学校担当者、副村長ともよく話をして、この事業を行うことを決定しました。



■12月15日～12月19日：スカパーJSAT株式会社 サポート（カンボジア）

衛星放送のスカパーJSAT 株式会社の CSR 活動をサポートすることになり、カンボジアを案内してきました。

「教育に関する活動をしたい」とのことで、CHANG の運営する孤児院、幼稚園、学習塾、そして子ども達が通っている小中学校、また他の NPO が運



営する学習塾も訪問。結果として、古くなった CHANG 学習塾の改修工事を行ってくれることになりました。完成は来年の予定です。

■12月15日～12月19日：遠足（カンボジア）

孤児院と村の子ども達を遠足に連れて行きました。これは毎年のお楽しみで2年連続で海へ行き、去年は動物園、今年はいオンのプールになりました。多くの子ども達は初めてのプール、大きな浮き輪やウォータースライダーに大喜びでした。孤児院は村のコミュニ



ティ（日本で言えば児童館）も運営しているので、殆どのイベントは合同で行っています。

子ども達にとって良い思い出となり、また私達も多くの子ども達と絆を深めることができました。



■12月15日～12月19日：日本への就職決定（カンボジア）

CHANGの施設で育ったフンが技能実習生として日本へ来ることが決まりました。この子は大学に進学したのですが、直ぐに中退。その後はCHANGのパン屋で働きながら、日本語学校へ進学。日本の企業を何度も受けては不合格、それでもあきらめずに受け続け



やっと合格したのです。この進路は、村やCHANGの施設でも初めてのことで、子ども達の現実的な目標になりました。日本へ来るのは3月を予定しています。

■12月21日：川口市芝児童センター ワールドフェスティバル（国内活動）

地元の児童館で「カンボジアの子供とお友達になろう！」というイベントをしました。まずはカンボジアを知ってもらおうと、映像でカンボジアの場所、気温、アンコールワットなどを紹介。ちょっとしたクイズも楽しんでもらえました。



そして参加者全員100名ほどでブレスレットやネックレスなどのアクセサリーを作りました。これをカンボジアの子ども達に届け、その時の写真を一枚一枚撮って、日本の子ども達にお返しする企画です。小中学生は、みんなで楽しそうにアクセサリーを作ってくれました。

■2月12日～2月15日：慶応大学の健康教室 サポート（カンボジア）

慶応大学の学生19名を案内しました。この学生たちは医療看護学部の国際関係サークルで、昨年に続き2回目の案内です。事前に要望のあった施設、CHANGの職業訓練を行っている市場の八百屋、中学・高校、学習塾を案内。そして孤児院では、健康教室を開催し



てくれました。子ども達は栄養や消化の話しを聞き、初めての聴診器に興味津々。散歩にも行き、とても楽しい時間を過ごすことができました。最後はスラムに行き文房具などをプレゼントしました。

■3月16日～3月18日：小学校・幼稚園 完成式典（ラオス）

小学校と幼稚園の完成式典へ参加してきました。行政や教育関係者、そして保護者など160名が参加する盛大な式典でした。教育長と校長の挨拶に続き、私たちからは「ラオスの子ども達の未来のため、ラオスと日本の友好のために今後も活動を続けます」とお話ししました。



この小学校と幼稚園はCHANGのラオス拠点にもなりますので、これからここでイベントやツアーを開催する予定です。

### ■3月19日：緊急帰国（カンボジア）

新型コロナウイルスの感染が世界的な脅威となってきました。日本との就航を急遽ストップする航空会社も出てきて、日増しに深刻な状態となってきました。ラオスの空港でも「最終目的地が日本なら搭乗させることはできない」など言われてしまいました。何とかカンボ



ジアまで到着。そこで直ぐに緊急帰国を決め、翌日の夜の便で帰ることができました。孤児院のスタッフと子ども達にも状況を説明し、一日だけでしたが散歩などを楽しむことができました。

以上の3月の緊急帰国以降は渡航することはできませんでした。それでも直接運営しているカンボジアの孤児院や幼稚園の運営費や生活費は現地スタッフに送金し、生活を困らせることのないように致しました。またラオスの小学校と幼稚園も、コロナの学校全体の消毒やマスクの費用、また壊れてしまったパソコンの費用を送金することで対応しました。よって年間を通じて渡航ができないこと以外の活動は継続できたと捉えております。

どの施設も訪問することはできないのですが、その分いつも以上に日々連絡を取り合うことで、現地の状況を確認し、絆が深まった時期でもありました。

事務局内の作業としても、ホームページの更新や、新しいパンフレットの作成など、海外へ行かない分の時間を有意義に活用することができました。

以上